

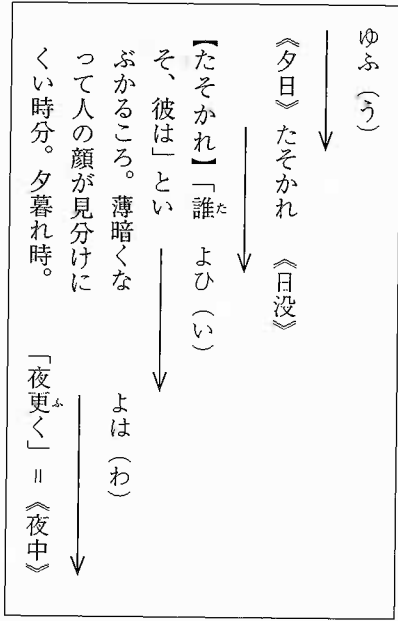
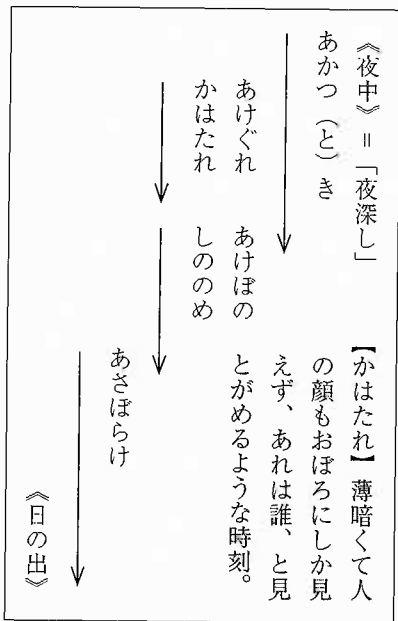
解答

- 問一 ①あかつき(あかとき) ②あけほの
 ③しののめ ④たそかれ ⑤よい ⑥よわ
 問二 ①むつき ②きさらぎ ③やよい ④うづき
 ⑤さつき ⑥みなづき ⑦ふみづき「ふ(ん)づき」
 ⑧はづき ⑨ながつき ⑩かんなづき
 ⑪しもつき ⑫しわす
 問三 ①しんげつ ②みかづき ③もちづき
 ④いざよいのつき ⑤たちまちのつき
 ⑥いまちのつき ⑦ふしまちのつき
 問四 ①イ ②エ ③ウ ④カ ⑤ア ⑥オ

解説

問一 ①夜明け前の薄暗いころ。②夜がほのほのと明け始めようとするころ。③夜がようやく明けようとするころ。明け方。和歌用語。④だれだろうあの人はといぶかるころ。⑤夜になってから間もないころ。⑥夜中。夜更け。

問二 十二か月の古名の語源には定説がないが、その代表的な俗説を紹介してみよう。
 「むつき」①萌ゆ月で、草木の萌え出す月。モユがムに転化したもの。②初ひ月で、一年の初めの月。ウがムに転化し、ヒが脱落したもの。
 「きさらぎ」本草発月で、木草の芽の張る月。クが脱落し、ハリがラキに転化したもの。
 「やよひ」弥生ひ月で、草木がいよいよ生ふる月。
 「うづき」うなへ月で、田うなへ月の田を省略したもの。
 「さつき」早苗月で、早苗を育て取る月。ナエが脱落したもの。
 「みなづき」水月で、水の大切な月。
 「ふみづき」穂含月で、稲の穂のはらむ月。ホフがフに転化したもの。
 「はづき」穂発月で、稲穂の大きくなる月。ホハがハに転化し、リが脱落したもの。
 「ながつき」稲刈月で、稲刈りの月。イとリが脱落し、ネがナに転化したもの。
 「かみなづき」①無雷月で、雷の鳴らない月。シが脱落したもの。②神嘗月で、新穀を神に捧げる月。メが脱落したもの。



「しもつき」しほむ月で、草木のしほむ月。ボがモに転化したもの。
 「しはす」年極(としはら)月で、一年の終わる月で、トとルが脱落したもの。
 これらの俗説を見渡すと、大半は農耕生活を反映したもので、日本人は農耕民族であることを示している。
 問三 昔は月の満ち欠けの一巡によって、一か月がきめられていた。したがって、昔の人は月の明るさや形に敏感であった。

(月の出の時刻は、季節により一時間程度のずれがある。)

月の呼び名	月の入り の形	月の出の 時刻
新	月	6:00
二	月	7:30
三	月	8:30
七	月	11:30
八	月	12:30
九	月	13:30
十	月	14:30
十一	月	16:30
十二	月	18:00
一	月	18:30
立	月	19:00
二	月	20:00
三	月	21:00
四	月	22:00
五	月	22:30
六	月	0:30

上弦の月・夕月夜 ↓ 下弦の月・朝月夜(有明月)

問四 二十四節気には、二つの定め方があり、一つは一年の長さを二十四等分し、それぞれに季節にふさわしい名称を与えたもの。「立春」「夏至」「秋分」「大寒」などがこれに相当する。

もう一つは地球から太陽を見ると、太陽は地球を中心に運行しているように見え、この太陽の視軌道（黄道）を二十四等分して、季節の推移に適するようにしたものである。

したがって、前者の節気の定め方を「平気（恒気）」といい、後者の節気の定め方を「定気（実気）」という。平気によると、たとえば「立春」から「雨水」までの間は等しく十五日五時間十四分半となる。しかしこれでは真の立春と暦の上の立春（一月一日）とが一致しないことになる。一方、定気によると、節気間は十四日十七時間十八分から十五日十七時間三十分の開きができ、一節気間が十四日・十五日・十六日の三通りがあったが、真の立春と暦の上の立春はほぼ一致していた。

第2日 干支と時刻と方位

解答

問一 甲二 甲二 乙二 丙二 丁二
 戊二 己二 庚二 辛二 壬二
 癸二

問二 子二 丑二 寅二 卯二 辰二 巳二 午二 未二 申二 酉二 戌二 亥二
 子二 丑二 寅二 卯二 辰二 巳二 午二 未二 申二 酉二 戌二 亥二

問三 (1)①午の刻は十一時から十三時までの二時間で、その真ん中の十二時が「正午」ということになる。②その正午の以前が「午前」、以後が「午後」ということになる。

(2)①九時から十一時までの二時間（午前）。②十五時から十七時までの二時間（午後）。③十九時から二十一時までの二時間（午後）。

(3)子の刻を四等分した三つ目の時刻で、午前零時から午前零時三十分ごろまで。

問四 ①うしとら ②たつみ ③ひつじさる ④いぬい（いぬる）

四季	春	夏	秋	冬	
気名	立春 <small>りつ</small> 雨水 <small>すいすい</small> 春分 <small>しゅんぶん</small> 清明 <small>せいめい</small> 立夏 <small>りつ</small> 芒種 <small>まげしゅ</small> 夏至 <small>げし</small> 小暑 <small>せうしよ</small> 立秋 <small>りつ</small> 白露 <small>はくろ</small> 秋分 <small>しゅんぶん</small> 寒露 <small>かんろ</small> 霜降 <small>そうかう</small> 立冬 <small>りつ</small> 小雪 <small>せうせう</small> 大雪 <small>たいせう</small> 冬至 <small>とうじ</small> 小寒 <small>せうかん</small> 大寒 <small>たいかん</small>	立春 <small>りつ</small> 雨水 <small>すいすい</small> 春分 <small>しゅんぶん</small> 清明 <small>せいめい</small> 立夏 <small>りつ</small> 芒種 <small>まげしゅ</small> 夏至 <small>げし</small> 小暑 <small>せうしよ</small> 立秋 <small>りつ</small> 白露 <small>はくろ</small> 秋分 <small>しゅんぶん</small> 寒露 <small>かんろ</small> 霜降 <small>そうかう</small> 立冬 <small>りつ</small> 小雪 <small>せうせう</small> 大雪 <small>たいせう</small> 冬至 <small>とうじ</small> 小寒 <small>せうかん</small> 大寒 <small>たいかん</small>	立春 <small>りつ</small> 雨水 <small>すいすい</small> 春分 <small>しゅんぶん</small> 清明 <small>せいめい</small> 立夏 <small>りつ</small> 芒種 <small>まげしゅ</small> 夏至 <small>げし</small> 小暑 <small>せうしよ</small> 立秋 <small>りつ</small> 白露 <small>はくろ</small> 秋分 <small>しゅんぶん</small> 寒露 <small>かんろ</small> 霜降 <small>そうかう</small> 立冬 <small>りつ</small> 小雪 <small>せうせう</small> 大雪 <small>たいせう</small> 冬至 <small>とうじ</small> 小寒 <small>せうかん</small> 大寒 <small>たいかん</small>	立春 <small>りつ</small> 雨水 <small>すいすい</small> 春分 <small>しゅんぶん</small> 清明 <small>せいめい</small> 立夏 <small>りつ</small> 芒種 <small>まげしゅ</small> 夏至 <small>げし</small> 小暑 <small>せうしよ</small> 立秋 <small>りつ</small> 白露 <small>はくろ</small> 秋分 <small>しゅんぶん</small> 寒露 <small>かんろ</small> 霜降 <small>そうかう</small> 立冬 <small>りつ</small> 小雪 <small>せうせう</small> 大雪 <small>たいせう</small> 冬至 <small>とうじ</small> 小寒 <small>せうかん</small> 大寒 <small>たいかん</small>	立春 <small>りつ</small> 雨水 <small>すいすい</small> 春分 <small>しゅんぶん</small> 清明 <small>せいめい</small> 立夏 <small>りつ</small> 芒種 <small>まげしゅ</small> 夏至 <small>げし</small> 小暑 <small>せうしよ</small> 立秋 <small>りつ</small> 白露 <small>はくろ</small> 秋分 <small>しゅんぶん</small> 寒露 <small>かんろ</small> 霜降 <small>そうかう</small> 立冬 <small>りつ</small> 小雪 <small>せうせう</small> 大雪 <small>たいせう</small> 冬至 <small>とうじ</small> 小寒 <small>せうかん</small> 大寒 <small>たいかん</small>
現行の暦のだいたいの月日	二月 四日 二月 十九日 三月 六日 三月 二十一日 四月 五日 四月 二十日	五月 六日 五月 二十一日 六月 六日 六月 二十一日 七月 七日 七月 二十三日	八月 八日 八月 二十三日 九月 八日 九月 二十三日 十月 八日 十月 二十三日	十一月 七日 十一月 二十三日 十二月 七日 十二月 二十三日 一月 五日 一月 二十日	

解説

問一 一か月を三つの旬（上旬・中旬・下旬）に分けた場合の一つの旬の十日間を十干で表した。つまり第一日目を甲、第十日目を癸と称した。この起源は殷の時代にさかのぼることができる。

五行説は、中国の戦国時代から漢の時代までに生まれたもので、宇宙の現象や人間の運勢などは、すべて「木」「火」「土」「金」「水」の循環と消長によって決定されるとみなす考え方である。すべてのものをこの五行説に当てはめ、五つ一組にして考えられた。いくつかの例を挙げてみよう。

五方	五色	五時	
東	青	春	木
南	赤	夏	火
中	黄	土用	土
西	白	秋	金
北	黒	冬	水

「土用」

立春・立夏・立秋・立冬の各季の前の十八日間をいう。特に立秋の前の十八日間をいう説がある。「中」中央を指す。